

第91回 中小企業景況調査報告書

7月～9月の実績と
10月～12月の見通し

■ 今期調査の景況キーワード

前年同期比売上D I値は▲20.4で、前期調査時より全業種で30.2ポイント増加した。
来期見通し売上D I値は▲29.0で、今期より8.4ポイントの減少を予測している。
地域の实体经济は、持ち直しの動きが見られるものの、来期売上は再び減少を予測し、依然として厳しい状況にある。
景況のキーワードとしては、「需要の停滞」「価格の低下」「ニーズの変化」などが挙げられる。

■ 調査時点 平成22年9月30日

■ 対象業種

製造業 25社(20) 建設業 23社(18)
卸売業 18社(17) 小売業 30社(19)
サービス業 21社(16) 合計 115社(90)
※()内は回答企業数

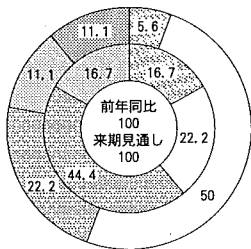
■ 回答率 78.3%

概況

◆ 売上状況(前年同期比)では、売上D I値▲20.4を示し前期調査時より30.2ポイント増加した。
業種別では建設業で42.9ポイント、卸売業31.8ポイント、製造業31.0ポイント、小売業30.0ポイント、サービス業で12.4ポイントと全ての業種で増加した。
来期見通しD I値は、▲29.0で今期調査時より8.6ポイントの減少を予測している。
◆ 採算水準(前年同期比)では、D I値は▲40.9で、前期調査時より9.6ポイント好転した。
業種別では小売業が±0で前期調査時と同数値示したが、その他は建設業26.5ポイント、サービス業22.8ポイント、製造業22.2ポイント、卸売業20.2ポイント好転した。
来期見通しD I値は▲25.7で今期調査時より15.2ポイントの好転を予測している。
◆ 仕入単価(前年同期比)では、D I値は▲21.5で、前期調査時より3.5ポイントと悪化した。
業種別では建設業で34.9ポイント、製造業15.9ポイント、卸売業15.9ポイント好転したが、小売業25.0ポイント、サービス業で悪化した。
来期見通しD I値は▲20.4で今期調査時とほぼ同数値を示している。
◆ 資金繰り(前年同期比)では、D I値▲33.3で、前期調査時より11.6ポイント好転した。
業種別では、小売業で±0で前回調査時と同数値を示したが、建設業25.2ポイント、卸売業19.9ポイント、製造業11.9ポイント、サービス業で0.9ポイント好転した。
来期見通しD I値は、▲33.4で今期調査時とほぼ同数値を示している。
◆ 雇用人員(前年同期比)では、D I値7.5で前期調査時より9.2ポイント不足を示した。
業種別では、建設業36.0ポイント、サービス業35.6ポイント、小売業5ポイント、製造業で1.6ポイント不足を示したが、卸売業で23.3ポイントの過剰を示した。

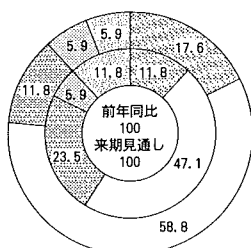
来期見通しD I値は6.4で、今期調査時とほぼ同数値を示している。
◆ 業界の状況(前年同期比)では、D I値▲54.8で、前期調査時より12.6ポイント好転した。業種別では製造業30.2ポイント、建設業26.5ポイント、サービス業9.2ポイント、卸売業2.4ポイント好転したが、小売業では5.0ポイント悪化した。
来期業況のD I値は▲48.4で、今期調査時より6.4ポイントのさらなる好転を予測している。
◆ 設備投資では、今期実施した企業は15.1%で、来期の設備投資を計画している企業は6.5%であった。
◆ 経営上の問題点としては、製造業では「需要の停滞」「製品(加工)単価の低下」「原材料費・人件費以外の経費の増加」建設業では、「請負単価の低下・上昇難」「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」卸売業では、「需要の停滞」「販売単価の低下」「店舗・倉庫の狭溢・老朽化」小売業では、「消費者ニーズの変化」「販売単価の低下」「購買力の流出」サービス業では、「需要の停滞」「店舗施設の狭溢・老朽化」「利用者ニーズの変化」となっている。

※ 業種別売上 (外円は前年同期比 内円は来期見通し)



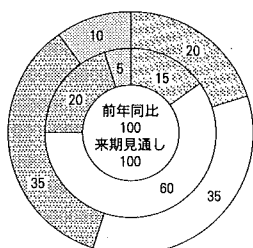
■ かなり増加
■ やや増加
■ 変わらない
■ やや減少
■ かなり減少
■ 回答なし

(単位: %)



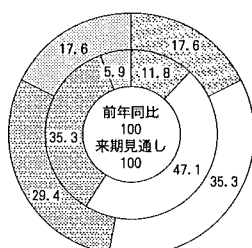
サービス業

(単位: %)



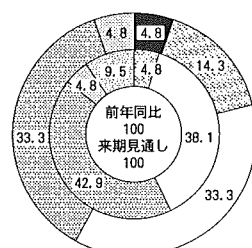
小売業

(単位: %)



卸売業

(単位: %)



製造業

(単位: %)